

市民公益活動支援センターを考える会 第6回 議事録概要版

日時：8月9日（火） 14:00～16:45

場所：柏市役所本庁舎分室1第1会議室

記録：松浦光恵

参加者：塚越忠夫・四元恒慈・保田行弘・高田昭治・山岡平三・中村典道・吉村友佑・高橋昌代・小島琢夫・吉田孝子・大島安輝子・増田泰子・諏訪部正敏・藤田哲也・鬼澤徹雄・後藤能成

合計16名他、事務局8名（インターン4名）

（欠席者）岡田哲郎・岡田幸男・土谷和光・松田月子

次第：

1. 前回のおさらい
2. 機能と事業内容を考える と
「ネットワーク・コーディネート」と「場所・施設等の提供」
休憩
3. 運営方法を考える
4. 事務連絡
第7回開催日程

1. 機能と事業内容を考える 「ネットワーク・コーディネート」

社会福祉協議会・ボランティアセンターのコーディネート事業の事例を参照しながら、前回に引き続き、機能の三つ目として「ネットワーク・コーディネート」について話し合いを行った。

まずコーディネート事業には、市民が「受身的」にサービスを受ける型と、提供する側、される側というものではなく、互いにネットワークをつくっていく「積極的」な型があるのではという議論となり、そこで以下の二点を考えながら、今回の支援センターでは、「積極的」なコーディネートを事業内容として検討していくのはどうか、という議論となった。

社会福祉協議会・ボランティアセンター等の既存組織との兼ね合いや住み分け
安心感・信用度などの官設の支援センターの強み

2. 機能と事業内容を考える 「場所・施設等の提供」

四つ目の機能として「場所・施設等の提供」について検討に入る前に、柏市の担当より、支援センター候補地の選定について、現状報告を行った。

また、次の議論内容として機能「場所・施設等の提供」を予定していたが、実際の候補地が定まり、機能についての全ての議論が終了した時点で検討することとし、先に運営方法について考えることとした。

3. 運営方法を考える

支援センターの具体的な運営方法についての検討を行い、まず以下の三つの方式が考えられるという議論となった。

運営協議会方式

別組織（社協・NPO等）への委託/受託方式

官営（行政で雇用するスタッフで運営）

そしてそれぞれの方式について、「メリットとデメリット」「それぞれの機能について、どの方式がとうまくいくのか」について意見を出し合った。

運営協議会方式（民営）

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の声が反映されやすい ・広く人材を集めれば、良い人材が集めるのでは？ ・相談：うまくいけばマルチな窓口 ・交流：集客/共創に適しているのでは ・コーディネート：よい人材がいればうまくいく 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任の所在が不明になりがち ・個人/各ワーキンググループの負担が大きい ・専門性/レベルアップのために研修をする必要がある ・運営協議会では個々の事業は運営できるが、全体の運営は見えないことが多い ・コーディネートが大変

別組織（社協・NPO等）への委託/受託方式（民営）

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・専門性有り ・責任の所在や決裁権が見えやすい ・人材のレベルが高いのでは ・相談：専門性有り ・交流：ノウハウ有り 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託費が高くつくのでは？ ・市民との協働プロジェクトが少ないかも

官営（官営）

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・責任の所在が明確 ・相談：行政との橋渡しが可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性に欠ける可能性あり（財源によって人材が変わってしまう） ・コストがかかる ・交流は苦手？

このように様々な意見が出されたが、どの運営方式が今回の支援センターにふさわしいのかについては意見がまとまらなかった。そこで次回は、

それぞれの運営方式のメリット・デメリットの類型整理
提言書や委託契約書について専門家を招いての検討

について話し合うこととなった。

4. 今回のまとめと次回

今回の会議では、具体的な機能の三つ目である「機能：ネットワーク・コーディネート」について意見を出し合い、「機能：場所・施設等の提供」については候補地が定まるまで、一旦保留とした。また、「運営方法を考える」については、それぞれの運営方式のメリット・デメリットの類型整理を行いながら、次回も引き続き検討する。